

環境白書の発刊に当たって



世界の人口が70億人を超え、経済のグローバル化の流れが加速する中で、地球温暖化や生物多様性など環境問題の解決なくして、社会・経済の存続や発展はあり得ないという危機感が世界の人々に広く共有され、持続可能な社会づくりに向けて、時代は大きく転換しつつあります。

昨年末に、南アフリカ共和国のダーバンにおいて開催されたCOP17では、難航した交渉を経て、すべての主要排出国が参加する新しい法的枠組みについて、2020年の発効を目指すことが合意されましたが、地球温暖化防止に向けた世界の流れを止めることなく、世界の国や地域がそれぞれの利害を超えて持続可能な社会・経済を確立するための道筋を築くことが重要です。

昨年3月、日本は、東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故という未曾有の大災害に見舞われ、その影響は、今なお、被災地をはじめ国全体に及んでいます。

被災地の再生と復興はもとより、脱原発依存の大きな流れの中で、地球温暖化対策とも両立し得る安心安全なエネルギーの確保が求められています。

こうした情勢のもと、京都府においては、京都議定書誕生の地としての誇りと使命感を持って、先駆的な地球温暖化防止対策を推進しています。「京都府地球温暖化対策条例」において、温室効果ガスを2020年度までに1990年度比で25%、2030年度までに40%、さらに、2050年度までに80%削減するという目標を掲げ、その達成を目指して、再生可能エネルギーの導入やエネルギーの効率的な利用などに全力を挙げて取り組んでいます。

今後、さらに厳しさを増す地球規模での環境問題や限りある資源・エネルギー問題に対して、京都が長い歴史の中で育んできた知恵と文化を生かして取り組むことにより、持続可能な社会の新しいモデルを京都から創造・発信していきたいと考えています。

この白書は、京都府が目指す持続可能な社会や循環型社会の構築、豊かな自然を活かした身近な自然とのふれあい拠点の整備や絶滅のおそれのある野生生物の保護など、多岐にわたる環境保全対策の取組を府民の皆様に紹介し、環境の大切さについて考えていただく材料となることを期待して発刊するものです。

多くの皆様に御活用いただき、京都府の環境に理解を深めていただきますとともに、一緒に環境を守り育てる取組を進めていただく際にお役に立てば幸いです。

平成24年3月

京都府知事 山田 啓二